

仕事の覚え方、学び方を身につける

—若い職人を会社に定着してもらうために—

東京左官技能者育成協会

東京左官技能者育成協会(略：東左育／原田宗亮代表)は、伝統の左官技術を継承し、次世代へと繋げることを目的に、平成26年に発足。東京の左官会社を中心に発足時は6社でスタートし、その後新たに2社が加わり、現在は8社で活動している。新人職人研修では現役職人の指導のもと1ヵ月間左官の基礎を学び、建築の基礎知識や職人として生きていく土台を心身共に身につけていく。また、同会が実施する職業訓練は普通職業訓練短期課程左官課として、東京都から正式に認定されている。

今回、研修を受ける新人職人は(有)原田左官工業所、西谷工業(株)、(株)信和工芸、(株)ワイズファクトリー、吉村興業(株)、大栄工業(株)の計6社から15名が参加する。

本稿では、東左育の開校式と新人研修会の様子を紹介する。

左官の基礎を学ぶ

西谷工業株式会社本社研修室にて4月1日(火)より25日までの20日間、東左育の令和7年度8期生新人教育が開催された。

カリキュラムでは左官の基本である塗り壁の技術をモデリングを活用して習得するほか、石膏飾り・漆喰塗り、土間定木ずり、ブロック積といった基本的な作業も網羅。特別教育として、足場の組立て等作業従事者、第2種酸欠作業、フルハーネス、丸のこ等取扱作業、自由研削砥石、高所作業車運転者、低圧電気取扱者などの専門分野についても座学と実技を織り交ぜながら学習を行う。

開校式の冒頭、校長として挨拶に立った原田代表は「本日より1ヶ月間にわたって左官の訓練が行われる。以前には左官業界において新人が集まって一緒に訓練を行うということではなかった。会社に入れば、現場に行き仕事覚えというやり方が当たり前だった。ところが現在では訓練をして現場に送り出すということを始めている。学生は



▲開校式の様子 (円内：挨拶する原田校長)

教わった授業内容に正解すれば良い成績が取れる。しかし、職人は自ら考えて、良いものを掴み、仕事に関わるすべての人を幸せにしていかなければならない。それを現場で突然やれと言われても難しい。当校は、学校と現場の間に埋めるものと考えて欲しい。まずは覚え方を身につけ、学び方を理解してもらう。仕事の覚え方や学び方を理解しておけば、現場で迷うことが少なくなる。それを理解してもらうための集合訓練となっている。講師の先生や仲間たちと一生懸命頑張ってほしい」と語り、左官の世界に飛び込む新人に向けてエールを送った。また、代表講師を務める久保憲史氏(有久保技建)は「講義の最初の2週間、塗り壁の専属講師として指導を行う。この1ヶ月間では、とてもお金の貰えるほどの技術にはならないと思う。ただ、仕事の覚え方さえ身につけられれば、絶対に現場で生きてくる。1ヶ月間の短い期間ではあるが、貴重な経験になると思うので頑張ってほしい」と語った。

開校式後には、一緒に学ぶ仲間の名前をゲーム形式で覚えて親睦を深めたほか、新人職人研修でも使用する鍍板と道具箱の製作を行った。そして、2日目からは「左官という仕事、働くということ」と題して久保講師が左官職人としての心構えを講義し、より実践的な塗り壁のモデリング授業へと移った。